

教育長報告（2）別添資料

明倫学区義務教育学校推進計画策定委員会報告

教育総務課・学校教育課

第18回 明倫学区義務教育学校推進計画策定委員会

期日：令和2年8月5日（水）

9：00～

会場：市役所 議員協議会室

次 第

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 報告

(1) 各検討部会からの報告について

①教育課程検討部会

②施設整備検討部会

③校名・校章・校歌・制服等検討部会

4. 協議

(1) 学校経営計画（案）について

(2) 校章デザインの完成について

(3) 制服・ジャージ等検討結果について

(4) その他

5. その他

(1) 明倫学園の仕上げ色について

6. 閉 会

第18回明倫学区義務教育学校推進計画策定委員会

—会議報告—

期日：令和2年 8月 5日（水）

9：00～ 11：00

会場：市役所 3階 議員協議会室

1 開会

2 委員長あいさつ

おはようございます。お忙しいところご参集いただき、お疲れ様でございます。

今朝の新聞で、最上地区の中総体の結果が出ていた。新型コロナウイルス感染症が発生して、学校現場も忙しい中、正式な競技として、中総体を開催していただき、子どもたちは本当に心躍る体験ができたのではないかと考えている。中学生は今日の新聞を見ながら、改めて自分の大会の様子を振り返ったのではないかと思う。柔道と剣道の子どもたちについては、新型コロナウイルス感染症の新たな患者が発生したということで、競技ができなかったことを大変残念に感じていると思うが、地区の大人のみなさんが、力を尽くして中総体をやってくれたということについては、思いが通じているのではないかと考えている。本当にお疲れ様でございます。

さて、今日の資料を拝見すると、長雨と新型コロナウイルス感染症の拡大、物流の遅滞等により、工事の進捗状況に若干不安な要素があると書かれている。現場の先生方にお聞きすると、計画通り開校できるか不安の声も聞かれるところである。暑い中、三密を避けながら工事をしてくださっている現場の皆様方には、大変なご苦勞をおかけしているが、何とか子どもたちが3月中に新しい校舎に足を踏み入れられるようお願いしたいと思っている。特に3年生については、夏休みも短くなって、騒音の中勉強しているので、新しい校舎をぜひ体感していただきたいと思う。

今日は久しぶりの会議になるが、この場で決定しなければならないことが様々あるようである。また、会議終了後に工事現場の視察という日程も組まれているため、会の進行にご協力よろしくお願ひしたい。

3 報告

(1) 各検討部会からの報告について

- ①教育課程検討部会
- ②施設整備検討部会
- ③校名・校章・校歌・制服等検討部会

—各部会より報告—

質疑なし

4 協議（議長：委員長）

(1) 学校経営計画（案）について

（委員長）

学校経営計画案について部会長より説明願う。

（委員）

資料の学校経営計画案をご覧ください。説明に先立って、1学期に3校で全員研修会を行って、学校経営計画案について修正及び作業をするつもりであったが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催ができなかった。そのため、今回は素案として提案させていただき、11月の策定委員会で本案を提出させていただくことをご了承願ひたい。

学校経営計画については、学校生活の土台となる基本計画になる。どんな学校を目指しているのかを示すものである。4頁をご覧ください。明倫学園の学校教育目標は、頁左側にある「いのち輝き、夢に向かって学び続ける子どもの育成」である。そして、「めざす学校像」「めざす子ども像」「カリキュラム編成の方針」とある。特に、「めざす学校像」については、「いのちの尊厳を根底に据えた学校」を第一に目指している。その具体的なものとして、1つ目が「9年間のかかわりを大切にする学校」、特に縦のかかわりを生かした学校づくりを目指していく。2つ目が「みんなが楽しく学べる学校」、そして3つ目が北辰、沼田、明倫のそれぞれの地域の良さをいかした「地域とともに育つ学校」である。目指す子ども像については4点ある。1つ目が、市の心の教育とも関わってくるが、「いのちを大切に、思いやりのある子ども」、2つ目が「夢を持ち、学び続ける子ども」、3つ目が「たくましく挑戦する子ども」、そして4つ目が「ふるさとを愛する子ども」を目指していく。9年間のカリキュラムの方針であるが、特に前期の1年生から4年生については、「基礎充実期」として、主に学級担任制とする。基礎・基本の習得や、生活や学習における個別支援体制の充実を目指している。中期の5年生から7年生については、一部教

科担任制、そして教科教室の推進を目指す。5、6年生は本当ならば小学校の担任が全部行うのが普通だが、9年制の良さを生かし、中学校の専門性を生かした授業であったり、小学校の教師が中学校に出向いたりして、お互いに交流しながら相互的に取り組んでいく。後期の8、9年生については、全教科教科担任制、さらに専門性を高めた教科指導、そして教科教室制を推進していく。

5頁目の下部についてご覧いただきたい。明倫学園の教育課程の特色を示している。「3つの活動部」とあるが、これについては、10頁も合わせてご覧いただきたい。学校の中で、「総務部会」「活動部会」「学年ブロック部会」を組織して取り組む。特に活動部会については、「いのちの活動部」「学びの活動部」「かかわりの活動部」として、1年生から9年生までの系統性を重視し、連携を図っていく。そのため、この3つを柱立てして取り組んでいくことが教育課程の第一の特色である。続いて教育課程の特色の2つめの項目として、「4つの指導部」がある。これも10頁と合わせてご覧いただきたい。萩野学園では前期から後期までとなっているが、明倫学園においては、今、学校の課題である特別支援教育に重点を置きながら、「前期部」「中期部」「後期部」そして「特別支援教育部」で連携を図りながら、子どもたちをきめ細やかに育てていく体制をとる。これについては、6頁から9頁の各ブロック経営計画で、重点及び手立てについて系統性を持って具体化を図っている。特色の3つ目が「段階的な教科担任制」である。特に、5年生からの一部教科担任制により、学力向上や中1ギャップの解消を効果的に図っていく。教科教室の良さを存分に生かしながら、専門性のある魅力ある授業を行っていく。続いて「9年を結ぶ教頭のCO役」である。これも10頁と合わせてご覧いただきたい。総務部会、活動部会、学年ブロック部会、そして各活動部のコーディネーター役として3人の教頭を位置付けることによって、全体をくまなくスムーズに動かすための仕組み作り今回新たに取り組んでいる。その他の教育課程の特色についてはお読みいただきたい。明倫学園としての教育課程の特色、組織的な特色を踏まえ、子どもたちにとって楽しい学校を目指しながら、さらに具体化を図っていく。最後に、18頁をご覧いただきたい。1年生から9年生までの授業日数だが、208日から最大210日と設定している。また日課・週時程だが、1、3、5時間目の開始が揃うことで、お互いに交流できるように設定している。1年生から4年生については45分、5年生から9年生については50分の授業時間となっている。5年生から9年生は中間休みがないが、これは中学生としての生活に早く馴染めるように考慮したものである。19頁をご覧いただきたい。月曜日から金曜日まで、朝読書を実施する。豊かな心を育むとともに、子どもたちに読解力を身につけさせるのがねらいである。掃除については、縦割り清掃を実施する。19頁の下部は1年間の授業時数である。1年生の850時間から、4年生から9年生は1015時間となっている。()内の数は週ごとの時数となっている。

(委員長)

素案ということで提案があったが、ここでご意見をいただいて作り直すとのことである。ご意見いかがか。

(委員)

意見なし。

(委員長)

なければ私の方から。新型コロナウイルス感染症で大変な中、まとめていただき感謝申し上げます。5頁目の教育課程の特色について、これ以降の頁にも反映されていることが大切だと思う。萩野学園も明倫学園もそうだが、大きな特色の1つとして教科教室を導入している。その活用について、掲示教育のところに一文あるが、もう少し記述があってもよいのではないかと感じた。2点目に、教育課程の特色の自治能力の育成のところで、特に中期における活躍とあるが、どういう形で中期の子どもたちに活躍の場を提供するかの記述があればよいと思う。3点目に、部会の中でも話し合われたと説明があったが、学校生活のきまりの頁について、学校経営計画に載せるかどうかは、判断が分かれるところだと思う。そこも検討いただきたい。その他あるか。

(委員)

先生たちは分かるのかもしれないが、言葉の意味が分からないところがある。学校関係者以外の人も見るのであれば、欄外に言葉の説明があるとよいと思う。例えば、CO、UD、TT、SCとは何か。欄外に記述があると助かる。なお、本日19頁まで説明されたが、それ以降はこれからまた検討されていくのか。

(委員)

ご指摘ありがとうございます。横文字が分かりづらいというのはもっともだと思う。UDとはユニバーサルデザインの略である。全体的に、一般の方も見たときに分かるよう配慮したいと思う。なお、本日は時間がなくて全て説明できないだけで、全体的に作成を進めている。8月31日に3校で作業部会を行うので、その中でさらに検討を進めていく。

(2) 校章デザインの完成について

(委員長)

校章デザインの完成について説明願う。

(事務局)

事務局から説明をさせていただく。資料の16頁をご覧ください。こちらは第15回明倫学区義務教育学校推進計画策定委員会において、最優秀賞である武田香穂さんの作品を校章デザインの原作として取り扱い、制作者の考えをもとにデザイナーが補正、補色等の監修を行い校章として完成させることを承認いただいたものである。令和2年1月17日に、校章選定委員会委員であるグラッシーデザイン代表の内藤秀一さんに補正、補色等の監修を依頼した。その後、デザイナーと原作者との打ち合わせを4回ほど重ね、7月10日にデザイナーから校章デザインの提出があった。資料には単色版とカラー版の2つがあるが、カラー版を校章の完成とする。用途により、単色の使用も考えられるため、単色の補正、補色デザインの提出もあった。単色の場合、色を緑と特定するわけではないが、原作者の意見をもとに提案いただいた作品となっている。これを先日の検討部会で報告し、承認いただいた。本日、本委員会で報告し、承認いただきたいと思います。

(委員長)

検討部会ではこれで承認されたとのことだが、いかがか。

(委員)

意見なし。

(委員長)

特に異論がなければ、生徒のデザインをもとにして作った校章ということで、非常にいいデザインになったと思う。策定委員会でも了承する。

(3) 制服・ジャージ等検討結果について

(委員長)

制服・ジャージ等検討結果について説明願う。

(事務局)

制服・ジャージ等検討結果について、部会長からも説明があったが、作業部会、検討部会で内容を検討したものを、本委員会に提案したいと思う。それでは資料に沿って説明する。選定要項の基本仕様により、制服のタイプは男女ともブレザーである。部会では、プレゼンで提案いただいたブレザーをもとに、色、素材を検討した。概ねコンセプトにあった提案となり、原案の通りとした。また、ボトムについては、現在の明倫中学校では冬用を1年間使用していることや、1本のボトムで済ませられる方がよいという意見から、オールシーズンスラックス、オールシーズンスカートを、全員が購入する。冬用、夏用はニーズに合わせて購入できるよう別注対応を可能とするという意見でまとまった。中に着るYシャツとブラウスは市販品になる。細部検討による変更箇所は2つになる。1点目は、リボンとネクタイについてである。展示を見たときの子どもたちの意見として、濃い緑がよいという声が結構あったということと、明るい方が元気なイメージがあるとのことから、業者から再提案いただいた原色に近い緑色にストライプのものとしている。リボンの大きさは、ブレザーの上に乗っかって見えるということから、小さめとしている。2点目はボタンについてである。提案のデザインのもの、Mが強すぎるのではないかとアンケートの結果を受けて検討し、デザインを校章に変更している。またブレザーは洗濯できる素材であるということから、ボタンをとって洗濯できた方がよりよいという意見をいただき、価格は少し上がるが、チェンジボタンに変更するという意見でまとまった。

次に夏服についてだが、ボトムはオールシーズンタイプを選択したため、上着のみを検討した。作業部会では、以前から「子どもたちが着やすいもの」をポイントにして検討を進めてきた経過から、半袖ポロシャツを指定とするということで意見がまとまった。資料1頁の表に書かれているのが、作業部会でいただいた意見の要旨である。続いて2頁をご覧ください。検討部会では現在の明倫中学校の過ごし方を参考にし、作業部会で決定したポロシャツの現物を確認した上で検討した。現在の明倫中では、登校時と朝の会は制服を着用する、1時間目に体育や他の技能教科があればジャージに着替える、3時間目以降はジャージに着替えてよいという体制である。作業部会で決定したポロシャツがこちらになる。明るい白色が、さわやかで活発なイメージである。男女兼用の形をとることで、お下がりや女子スラックスに対応できる。生地は速乾、汚れに強いもの、洗濯に強いもの、ノーアイロンである。ボタンについては、第1ボタンと第2ボタンの間の距離を考慮しており、第1ボタンを外してもはだけることがない。また5年生からの着用を考慮し、ワンタッチ式としている。また明倫学園のオリジナル性を出すために、ポロシャツにワンポイントとして、制服ワッペンと同じデザインであるMに、3校が一緒になるというイメージの3つのあじさいの刺繍を入れる。ワンポイントとボタンの色は、制服のベースやジャージの色よりネイビーがいいだろうと考えた。丈は裾を外に出すことを想定して短めとした。検討部会の際には刺繍は入っていなかったが、このような形のを提案し、見ていただいた。そして、検討部会では、夏場の式典にはどのようなものがあるかということも確認した。始業式などの学校内の式典、コンクールや表彰式などの学校外の式典など、他校とのバランスを考えたときに、全てポロシャツを着通せるのかということも検討していただいた。正式な服装として半袖ポロシャツがよいという意見、Yシャツも必要であるという意見のどちらもあった。また、どちらを選択しても、5年生から9年生が統一した制服を着用する方が一体感が生まれてよいという意見になり、統一したものを選ぶこととした。検討の結果、制服は襟がしっかりしたもの、5年生から着用するため活動しやすいもの、複数の指定品を認めれば保護者は

買うものに迷うし、費用がかかることなどから、半袖ポロシャツを夏用制服とするという意見にまとまった。ただし、寒さ対策や、事情があって長袖を着用する場合などもあることから、長袖の白Yシャツ、ブラウスの着用も認めるという運用を取り入れることとして意見がまとまった。以上が制服についての検討結果と提案になる。

(委員長)

制服について検討部会での検討結果を説明していただいた。大きく3点ということで、1点目はリボンとネクタイの色とデザインを原案から変更しているということ、2点目は夏用制服にポロシャツを採用するという、3点目は子どもの多様性に配慮し、ポロシャツを着づらいという生徒についてはYシャツ、ブラウスの着用も認めるということである。これらの点についていかがか。

(委員)

質問であるが、1点目に、ポロシャツは裾を出して着るのか。裾を出すように丈は短めという説明であったが、学生の頃にシャツの裾を入れるように指導されていた身として、学校としてそこはどうなのか。2点目に、夏は長袖Yシャツでもいいとのことだが、ネクタイは外してもよいのか。3点目に、ポロシャツの胸のワッペンが校章になるのか、それともこのままのデザインになるのか。

(委員)

1点目のポロシャツの裾を出すか出さないかについては、基本的には出すものとして業者にデザインしていただいた。根拠としては、高校でこのようなポロシャツの制服を採用しているところがあり、全て出すタイプのものである。そのため、今回も出すタイプのもので提案があった。今後、生活のきまり等との関連も運用上出てくると思うが、基本は裾を出すものということで考えている。

2点目については、夏服であるため、ネクタイはせずにYシャツのみとする。3点目については、ジャージでも出てくるが、TPOにあわせて校章やエンブレムを使い分けることも必要ではないかということで、校章を生かしつつ、ポロシャツではブレザーと同じようにMを基調としたエンブレム、そしてジャージはまた違うエンブレムとすると考えている。

(委員長)

ポロシャツは裾を出すということで、先生方の指導のしやすさという点ではよかったと思う。他にいかがか。

(委員)

夏用ポロシャツについてだが、資料に透けづらいとの記載があるが、特に女性については透けてしまうと大変であると思った。そこは大丈夫という判断なのか。

(事務局)

その点も加味して決めている。女子は成長期でもあるので、透けづらいということは大事な観点であると考えて検討した。

(委員)

制服に関して、今回様々な意見や要望があり、なかなか形にしづらいものもあったが、事務局と業者で色々検討し、そういった意見を形にして提案いただいた。大変ありがたかったと思っている。その1つが、この透けづらさというところにつながっている。

(教育長)

夏用制服は何月から着用になるのか。年によって違うのか。気候で判断するのか。そのあたりの目安はあるのか。

(委員)

明倫中では、原則6月から9月だが、天候も考慮し、移行期間を設定し5月下旬から10月上旬ぐらいまで衣替えとしている。天候に応じてということでもよろしいと思う。

(教育長)

基本は6月から9月か。

(委員)

そうである。それでよろしいと思う。

(委員)

女子でもスラックスを選べるのか。

(事務局)

女子もスラックスを選べる。リボンについても、色を選べたが、スラックスをはいてピンクのリボンになるなどの組み合わせについての意見もあり、リボン、ネクタイの色を統一することになった。

(委員)

女子がスラックスを着用する場合は、ネクタイとリボンのどちらを着用するのか。

(事務局)

どちらも選べるようにする、と考えている。

(委員長)

制服については、提案の内容を了承するというでもよろしいか。

(委員)

了承する。

(事務局)

ジャージについて説明する。前回の策定委員会でいただいた意見を参考に、作業部会、検討部会で色について検討した。作業部会では、「緑からの脱却ということで色を指定していないところから始まっている」「一新して紺色のデザインがよいのでは」「紺色を見てから緑を見ると、紺色よりかっこいいという印象は持たない。子どもたちにはかっこいいものを着せたい」など、紺色を好む意見が多く見られた。また、プロのデザイナーが作ったものであるため、素人の考えで色を入れて、できあがりはどうなのかという意見もあり、緑色について良いという意見はなかった。検討部会では、策定委員会の意見、作業部会の意見を参考にしながら検討し、その結果を1種類に絞り込まず、3種類のイメージに順位をつけ、策定委員会に提案することを確認した。イメージ図の3頁からご覧いただきたい。前回の策定委員会で提示したものと同じものである。検討部会で決定した第1候補が、「基本色が紺色で、脇が水色」のものである。第2候補が、「基本色が濃い紺色で、脇が緑色」のものである。第3候補が、「基本色が緑色で、脇が濃い紺色」のものである。また半袖Tシャツとハーフパンツも、長袖にあわせたトータルコーディネートとし、長袖が第1候補で決定すれば、半袖は「紺色に水色」、ハーフパンツが「紺色に水色、紺色に白色と水色のライン」のもの、第2候補、第3候補に決まった場合、半袖は「紺色に緑色」、ハーフパンツは「濃い紺色に白糸と緑色のライン」のものに決定してはどうかと考えた。つまり、長袖が決まれば必然的に半袖もトータルコーディネートで提案させていただくということで確認している。この提案をもとに、策定委員会で長袖のカラーを選定いただきたい。また、部会長からの報告にもあったが、左胸にあるデザインのプリントについて、「校章がジャージに入ると、田舎の学校というイメージが増す」「原案のデザインがよい」などの意見があれば、「小学校は校章が入っているのが普通である」「校章のデザインで十分素敵である」といった意見もあったが、最終的に原案の通りとするという意見でまとまった。これは作業部会の意見から変更している。作業部会では、「Mの提案が制服とジャージにたくさん出ていて一貫性が見られず、中学生が考えた校章に変更してはどうか」という意見があった。細部検討については、変更箇所が1つある。反射材について、見本では「MEIRIN」となっているが、これを棒状の形に変更する。またズボンのラインについて、デザイナーのデザインを尊重し、原案の通り曲線がよいという意見でまとまった。ネームについては全学年が付けるものとし、1年生から4年生はお下がりに対応できるようワッペンに、5年生から9年生は刺繍とする。ネームの位置は長袖が左胸に、半袖は左裾、ズボンは左ポケットあたりとすることで意見がまとまった。こちらを提案とする。

(委員長)

ジャージについて、再度作業部会、検討部会で検討していただいた結果を出していただいた。これまでの経過を話すと、昨年度最後の策定委員会で、資料の第1候補である基本色が紺色で脇が水色のジャージを提案いただいたが、委員の中で、緑色のジャージも見たいという気持ちがある方も結構いて、同じデザインで緑色のものも準備できないかと事務局にお願いし、準備してもらった。その結果、新たに第2候補、第3候補のものも追加して策定委員会に提案していただいたが、検討部会では第1候補を採用したいという思いがあるようである。この提案についていかがか。

(委員)

2点確認である。1点目に、見本には「KURALON」というロゴがついているが、実際の製品にロゴはつくのか。2点目に、半袖シャツの左下側にネームを入れるとのことだが、明倫中では現在、半袖シャツの裾は入れることになっている。半袖シャツについては裾を出さずデザインになっているのか。

(事務局)

「KURALON」というロゴは必ずつけなければいけないということになっているが、位置はずらせる。

(委員)

中には付けることはできないのか。なんとなく邪魔に感じる。

(事務局)

ロゴの位置も含めて検討している。業者に確認している。

(委員)

半袖Tシャツは、裾を中に入れる前提で考えている。保護者から、安全面を考慮してネームが外に見えないようにしたいとの要望があり、裾を入れることで名前が見えないようにしている。また、名前が入っていることで、誰のものか分かるようにしている。

(委員)

陸上大会で、メーカーの名前が入っているものは使えないという規定があった気がするが、「KURALON」のロゴが入っていても大丈夫なのか。

(委員)

商標登録の大きさの規定があり、この大きさであれば大丈夫である。

(教育長)

ネームについて、1年生から4年生はワッペンで貼り付けるタイプで、5年生から9年生は刺繍とのことであったが、刺繍は結構時間がかかるように思う。そこは大丈夫なのか。

(事務局)

販売業者の方で刺繍をするので、大丈夫である。

(委員)

現行のものも刺繍である。

(委員)

今の委員の話とも重なるが、4年生まで使っていたジャージを5年生でもそのまま使う場合、個別に業者にジャージを持って行って、刺繍だけお願いする形になるのか。わざわざワッペンをはがして刺繍してもらうのか。

(委員)

検討部会ではそこまで考えていなかった。基本的な考え方として、1年生から4年生まではワッペン、5年生以降は刺繍と考えている。実際、学校が始まった場合、ご家庭の負担なども考えると、次に買い換えるときに刺繍してもらえればいいのではないかと私的には思う。

(委員)

それならば、1年生から刺繍でよいと思う。多少刺繍代はかかるかもしれないが、最初から刺繍の方が楽なのではと思った。

(委員)

もともとの考えとしては、発達段階に応じて、お下がりに対応したり、途中で買い換えたりすることもあると考えたため、1年生から4年生はワッペン、と考えた。

(委員)

胸のマークについて、校章、制服にあるマーク、ジャージにあるマーク、と3種類あることになるが、せめて制服とジャージは胸のマークを統一することはできないか。作っているメーカーが違うからかもしれないが、統一するという話はなかったのか。

(委員)

作業部会、検討部会での経過も踏まえてお話しする。作業部会では、現在提案されているマークにするか、校章にするかの2通りの意見があった。理由として、現行のものも校章が入っているし、せっかく作った校章だから使うべきではないかという意見であった。ただ、運動着は活動的に見える資料のマークがいいのではないかという意見もあった。結論として、作業部会では前者の方が採用された。検討部会では、作業部会と委員のメンバーが違うこともあり、アクティブに見える方がいいという意見が大多数であったため、資料のマークを採用した。制服やジャージの胸のマークを統一するという話は出なかった。TPOにあわせてマークを使い分ける方がいいのではないかということになった。以上が、検討部会での話の内容である。

(委員長)

検討部会では、話し合いの結果、TPOとデザインを優先するというので、この提案になったとのことである。他に意見がなければ、検討部会から提案された内容を、策定委員会です承するという事によるのか。

(委員)

了承する。

(委員長)

シューズ、カバンについて説明願う。

(事務局)

シューズ、カバンについて説明する。まず内履きシューズについて、業者より1年生から3年生はゴムタイプとマジックタイプの2種類を提案いただいた。4年生以上は小中学生向きと中高生向きの提案があった。1年生から3年生は、多少大きくても交差して止めることで、足に合わせるができるマジックタイプを選択した。4年生以上は紐タイプを選択した。4年生以上で選択したシューズは比較的丈夫さもあり、3年生までのシューズとデザイン性の統一感があるということが選択した理由である。また運用に関して、4年生から必ず買い換えとはせず、紐が結べるかなど児童の状況に応じて選択可能とすることで意見がまとまった。ラインの色については、色分けされている方が危機管理しやすいという先生方からの意見を参考にし、学年ごと3色展開とすることを考えている。明倫中学校の在校生の色を軸にし、開校時の9年生が黄色、8年生が赤、7年生が青、以下繰り返しとする。以上が内履きについての提案である。

次に外履きについて、通学用に使用することを前提とし、業者よりメッシュタイプと合皮タイプを提案いただいたが、合皮タイプを選択した。現在明倫中学校で使用しているシューズと同じものになる。差し色はジャージの色にあわせて、先ほど第1候補です承いただいた紺色とさせていただきます。以上が外履きについての提案である。

カバンについては、作業部会、検討部会で、現在使用しているものが容量的にも耐久性の面でも一番適しているのではないかと意見がまとまったことを第15回策定委員会に提案させていただき、その後微調整することとしていた。表示については、現在明倫中と学校名が入っているところに、明倫学園と入れることで意見がまとまった。以上がカバンについての提案である。

(委員長)

内履き、外履き、カバンの3点について、ご意見いかがか。

(委員)

内履きについて確認だが、3色展開とのことだが、全員が同じデザインのものを履く頃には、9年生、6年生、3年生は同じ色を履くということではよろしいか。

(事務局)

そうである。

(委員)

その色を、そのまま自分の学年の色ということで持ち上がっていくということではよろしいか。

(事務局)

そうである。

(委員長)

他にどうか。

(教育長)

内履きの着用学年について、資料では開校時の新規購入はしないとの記載があるが、現在小学校での内履きは自由である。この文言だと、新7年生も購入の必要がないと捉えられるが、いかがか。

(事務局)

ジャージ等選定業務実施要項を作成した際に、全員が購入する必要はないのではないかという意見をいただき、「購入する」という文言を削除した。次回買い換えるときに指定シューズを購入すればいいだろうという策定委員会での意見により、要項を決定した。ただ事務局としては、開校する際には、1年生・7年生も購入するのではないか、と考えている。

(教育長)

選択は任せるということではよいのか。

(事務局)

そうである。

(教育長)

小学校から中学校に上がった際に、指定シューズを買わないのはどうなのかなと思う。策定委員会で決まったことではあるので、何とも言えないが。

(事務局)

購入学年について変更が必要であれば、再度協議いただきたい。

(委員長)

これまでの提案では、これまで履いていたものを引き続き使ってもよく、それが履けなくなったときに新しいものを購入するということだが、いかがか。

(委員)

制服が開校時の5年生から7年生までが新規購入となっているので、それに合わせるという形でいかがか。そうでなければ、制服を着ているのに、シューズは自由になってしまうこともあり得る。それ以降は、移行期間として1年のうちに買ってもらう、とすれば、制服を着用する子についてはシューズも一斉に揃うし、4年生以下についても1年以内に揃うのではないか。

(委員)

今のご意見の通り、保護者には負担をかけるが、シューズも制服の一部と考えた場合、できれば揃っている方がありがたい。それを基本としながら、今使っているものがまだ履けるのもったいないなど、どうしてもという理由がある場合にはそのまま使ってもらい、次に買い換えるときに指定シューズを購入してもらうこととする。原則としては購入してもらうこととした方が、保護者も迷わないと思う。

(委員長)

他にいかがか。

(事務局)

参考として、4月の開校の際に、新8年生、9年生は今までの制服を着用する。この点も考慮してご判断いただきたい。

(委員長)

他にいかがか。

(委員)

検討部会等で保護者も委員に入っていると思うが、話題ならなかったのか。

(委員)

この点については特にならなかった。

(委員)

制服なのに指定じゃないシューズを履くのはどうなのか。指定の方が格好つくと思う。その下の学年は、順次買い換えのタイミングで買ってもらえればよいと思う。

(委員)

どちらにしても、保護者は買ってくれるのではないかという期待はある。ただし、子どもが多いと大変

かもしれない。買う方が大変なのか、それとも迷いをなくした方がよいのか。難しいところである。

(委員)

無理して買わなくてもよいが、もともと小学校と中学校に入学するときにはシューズを買っているのだから、そのことは最低限維持しても問題ないのではないかと思う。

(事務局)

参考として、内履きが1年生から3年生のものは2,640円、4年生以上2,860円、外履き4,400円が予定価格となっている。

(委員)

中学校現場としては、開校時に8年生、9年生が現在の緑色のジャージ、7年生が新しいジャージとなるが、シューズは内履き外履き含めて指定を買っていただいた方がよいと思う。体育の授業等もそれで行うし、地区総体や練習試合等で外に出かける際もその競技用のシューズか、指定の内履きを持って行くことになる。小学校で履いていたシューズを捨てるということではなくプライベートで履いてもらえればよいので、学校の道具の1つとして新1年生、新7年生で買っていただくのは、保護者にご理解していただけるのではないかと思う。

(委員長)

他にいかがか。

(委員)

揃った方がよいと思う。捨てるわけではないので、プライベートで履いていただければよい。体育の授業等での安全面を考えて、指定のシューズで揃えた方が安全だと思う。

(委員長)

制服購入と同時に、内履きも購入していただく、ということよろしいか。

(委員)

制服は、新5年生、6年生、7年生が新規購入だが、シューズも、新5年生、6年生も購入することとするのか、それとも新1年生、7年生には少なくともシューズを購入してもらい、新5年生、6年生については適宜買い換えてもらうのか、確認をお願いします。

(委員長)

新5年生、6年生は順次切り替えていくということで確認する。新1年生、7年生のみ、内履きと外履きを購入することよろしいか。

(委員)

新1年生は内履きだけ購入か。

(委員長)

内履きだけである。

(事務局)

確認する。内履きは新1年生と7年生が購入する、外履きは新7年生のみ購入する、ということよろしいか。

(委員)

他の学年は順次切り替えだが、1年以内など目処をつけないと、まだ普通のズックを購入しそうではないか。

(委員)

それはないと思われる。今使っているものは履いていてもいいが、新しく買うときは指定のものを買うようにすればよい。

(委員)

ジャージ、制服は新8年生、9年生が今のジャージを使うため、新しいものに切り替わるまでに最低2年はかかる。ジャージについては現在の小学1年生が新しいものに切り替わるまでに最高だと3年かかる。そう考えたときに、切り替えの期限を決めた方がよいと思う。例えば2年以内など、目処を示すのはよいと思う。

(委員)

Tシャツを切り替えたときもそうだが、人は新しいものに流れていって、淘汰されていく。1年以内に切り替わるのではないかと予想される。

(委員長)

カバンについては、現行のものを使うということはいかがか。

(委員)

了承。

(事務局)

ジャージについて確認したい。長袖ジャージは第1候補の基本色が紺色で、脇が水色のものによろしいか。よって半袖シャツも紺色と水色のもの、外履きシューズのラインも紺色ということよろしいか。

(委員)

了承。

(委員)

所感だが、校章のイメージを子どもたちがどこで感じることができるのかというのがある。せっかく校章を募集して、素晴らしいデザイナーの方に修正をしていただいたので、もう少し校章をPRできればいいのではないかと感じた。

(委員長)

校章の活用ということで、様々な場面で校章が子どもたちに定着するようになればと思う。それから策定委員会での様々な検討内容について、よりよい方向で提案するために様々な修正をすることもあると思うので、ご理解いただいて、議会にあげていただければと思う。

(4) その他

(委員長)

その他について、事務局いかがか。

(事務局)

特になし。

5 その他

(1) 明倫学園の仕上げ色について

(事務局)

現在、校舎棟を建設中だが、学校設置者である市、それから管理者である教育委員会で原則的には色を決定させていただく。ただし、各委員からもご意見いただき、市長、教育長にその意見を申し伝え、参考の上決定させていただきたいと考えている。

仕上げ色について説明させていただく。A、B、Cの3タイプを用意させていただいた。仕上げ色について、全体的に色を変えることは可能だが、基本コンセプトを崩したくないことから、アクセントカラーをどうするかということで、業者より3タイプを提案していただいた。アクセントカラーの使用場所だが、格子状の部分と、1階の一部である。外観色の提案のコンセプトとして、新庄市の花であるあじさいをモチーフとした配色となっている。Aが基本設計時からのイメージとして採用されてきたものである。外観の配色としては、多種多様な配色を考えられるが、3校統一した一体感を表現する観点から、3色くらいが引き締まって見えるのではと考えられる。奇抜な色を使うことに関しては、県の環境条例により使用禁止となっている。よって、あじさいをイメージした配色が妥当だと考えられる。以上の観点から、ベースカラーは白、濃い紫色の2色とし、屋根の防水シートに薄緑色を配し、あじさいのイメージを表現している。アクセントカラーとして、赤紫、青紫、若緑色の3色をそれぞれA案、B案、C案とした。内部仕上げ色について、教室の床の配色は萩野学園でも使われている木材のフローリングをイメージしたベージュ色としている。建物内部の壁については木目調の仕上げとし、その他の塗装部分については和風建築の伝統である漆喰をイメージした白色系となっている。色についての基本的な考え方は以上である。

先ほど部会長からもあったとおり、児童生徒にアンケートをとっている。資料に記載している集計結果も参考にさせていただいて、ご意見を伺いたい。

(委員)

今いただく意見、この前に部会でいただいた意見、子どもたちに行ったアンケートの結果などを含めて、市長、教育長に伝え、決めていただく予定である。忌憚ないご意見をいただきたい。

(委員長)

周囲の緑にマッチしたCがいいのではないと思う。子どもたちの意見でもCが多く、地域にも受け入れられると思う。

(事務局)

他にいかがか。

(委員)

今回は児童生徒にアンケートをしていただきありがとうございました。子どもたちにとって、自分たちの学校というイメージが出てよかった。明倫中の結果は、やはり緑が多かった。生徒たちは自分たちの緑と捉えていたようである。

(事務局)

他にいかがか。

(委員)

アンケートの通り、若緑色はなかなかよいと思う。濃い紫色の部分は最初から業者が決めている色なのか。

(委員)

濃い紫色の部分はベース色である。基本設計の段階で提案されてきた色である。

(委員)

もっとシンプルにして、2階と3階部分だけを着色するという意見はなかったのか。濃い紫色の部分のところを白にするという意見はなかったのか。塗装の手間も省ける。

(委員)

白でも塗装する必要がある。

(事務局)

業者の考えだと、締まった感じを出すための配色とのことである。壁全体を白くするとかえってぼやけてしまうとのことである。

(委員)

あまり奇抜な色にはできない。県の環境条例がある。

(事務局)

濃い紫色については、建築確認申請を出した際に、県に通っているため、それに類似した色であれば問題ないとのことである。

(委員)

街を見渡したときに、奇抜な色はない。環境条例で抑えられているからである。

(委員)

体育館棟も同じ色になるのか。ベースの色を固定して考えると、Aのほうが落ち着いて見える。1階の色を変えられないとすれば。

(委員)

そのイメージは正しいと思う。なぜなら、Aが基本設計のときに提案されたデザインである。

(事務局)

他にいかがか。

(委員)

素人意見で申し上げると、緑がよいと思った。1階の緑の面積が広く見える。

(事務局)

他にいかがか。

(委員)

Cはいいのだが、緑と紫のバランスが悪く感じる。

(事務局)

他にいかがか。

(委員)

2階、3階の格子部分の奥の色は塗らない、という案はなかったのか。

(委員)

なかった。この3案のみである。

(委員)

なぜかという、学校が何十年も続いて、塗料がはげてきたとき、奥の部分に塗るのは大変ではないかと感じたからである。1階部分なら簡単に塗装できるが、長い目を見たときに、工事等をする際、あまり教室などに影響しないよう、2階以上は色を塗らないという案はなかったのかと思った。

(委員)

この3つから選ぶのか。

(委員)

ここで決定するわけではない。

(委員)

この3種類から選んでくださいというわけではないのか。

(委員)

決める人が別の色でと言えば、別の色になる可能性もある。

(委員)

ここで決めるわけではないということか。

(委員)

決めるわけではない。

(委員)

色については、実際に塗って見ないと分からない。あとはお任せするという事でどうか。

(委員)

この資料についても、プリンターの色具合によっても変わってくる。あくまでもイメージである。

(事務局)

今後の検討の際に、参考にさせていただく。他にいかがか。

(事務局)

本日決定させていただいた校章と制服等のデザインは、これから教育委員会と政策調整会議に報告し、議会にも報告する。よろしくお願ひしたい。

次回の策定委員会は11月6日（金）の9：00～に予定する。

7 閉会

《協議結果》

①校章デザインについて、カラー版を校章として承認する。

②制服については、検討部会の提案を承認する。

- ・ボトムはオールシーズン対応とし、冬用、夏用については別注対応とする。
- ・夏用制服はポロシャツとする。

③ジャージについては、検討部会の提案を承認する。

- ・長袖長ズボンの色は、第1候補の「基本色が紺色、脇が水色」を採用する。
- ・半袖は「紺色に水色」、ハーフパンツは「紺色に白色と水色ライン」とする。

④シューズについては、検討部会の提案を承認する。

【内履き】

- ・1年生から3年生はマジックタイプ、4年生以上は紐タイプを着用する。
- ・ラインの色は開校時の9年生が黄色、8年生が赤、7年生が青、以下繰り返しとする。

【外履き】

- ・シューズは合皮、差し色は紺色とする。

○シューズの購入については、内履きは新1年生と7年生、外履きは新7年生が必ず購入とし、他の学年は順次買い換えを行うことに変更する。

⑤カバンについては、検討部会の提案を承認する。

- ・現在明倫中学校で使用しているものと同じものを使用する。



明倫学園制服

5～9年生男子冬服



5～9年生女子冬服



スカート着用 女子用スラックス着用

5～9年生男女夏服



男女兼用 半袖ポロシャツ

明倫学園ジャージ・シューズ・カバン

1～9年生ジャージ 前面



1～9年生ジャージ 背面



内履きシューズ



※色は赤・青・黄の三色

左：4年生以上対象

右：1～3年生対象

外履きシューズ



5年生以上対象

※カバンについては、現明倫中学校で使用している物を7年生以上が使用し、校名を載せて運用します。

校舎棟建設工事の進捗状況について

1. 施工業者（元年9月30日契約）

- (1) 建築工事 沼田建設・升川建設・丸充建設特定建設工事共同企業体
- (2) 機械設備工事 黒澤・弘栄特定建設工事共同企業体
- (3) 電気設備工事 ユアテック・東北電化特定工事共同企業体

2. これまでの経過

- 01/10/01 着工（4工区に分け、第1工区から順に工事を進める）
- 01/10/09 地業工事を開始
- 01/12/03 基礎工事を開始
- 02/02/14 P c a . p c 部材の工場製造を開始
- 02/03/12 工事現場内の新型コロナウイルス感染症予防対策を実施 → 以降継続
- 02/05/15 P c a . p c 組立工事を開始

3. 工事の進捗状況

02/08/06 進捗率 建築工事 33.8% 機械設備工事 12.5% 電気設備工事 8.4%

4. 今後の予定や課題

- ・ P c a . p c 組立工事は12月までの終了を目指している
- ・ 並行して出来上がった階から内装工事を順次実施していくこととしている
- ・ 内装工事中の現場内の3密対策をどうしていくか
- ・ 屋上防水工事が冬期間にかかる
- ・ 完成が間に合わない場合の開校方法を想定しながら進めていかなければならない



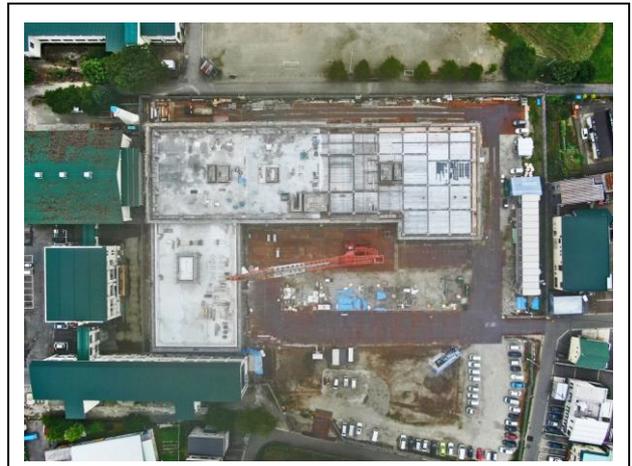
(02.07.31 全景)



(02.07.31 全景)



(02.07.31 全景)



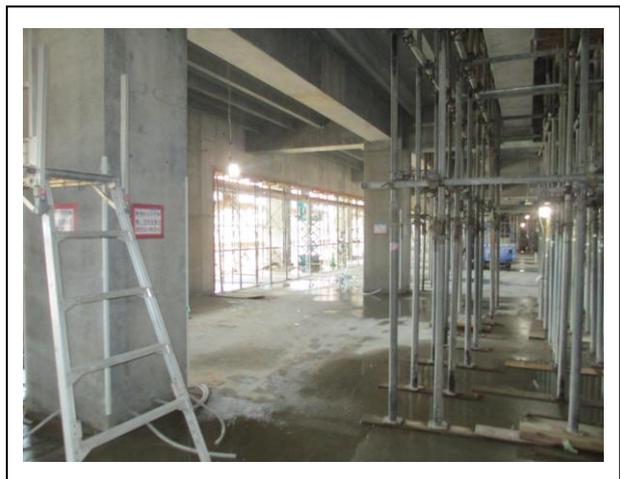
(02.07.31 全景)



(02.08.11 1階)



(02.08.11 1階)



(02.08.11 1階)



(02.08.11 1階)